

特36

116

館書圖京東

函六一門新

架六部四一

號三九類九

仰信餘筆

全

017774-000-8

特36-116

仰信余筆

超然/著

M10.7

ABF-0693



富流



校仰信餘筆序

吾兄虞淵老人、素富著作、而其書目、備於余所撰行狀、今不復贅、茲編乃其起筆未脫藁者也、余頃搜書篋、料理遺策、得其稿本二焉、一則爲嘉永己酉夏所艸創、一則爲萬延庚申秋所再治、而二本並僅々至一十八則而已、蓋其所欲言、豈獨止于此哉、老人嘗曰、吾才學雖謏劣、至乎識見、則不多讓於人、今閱遺策、其護法醇正之見、溢於楮表者、累々乎不勝僂指、如茲編、則其尤者矣、嗚乎、老人已逝、今欲見其全豹之美、不可得也、徒惜其未全、不若傳所存於世、於是就二稿本、擇其善者、校訂以貽同好、初學之士、由是而學焉、則庶乎其不悞宗意矣、或謂方今法

正心化

連城題



輪轆軻、內外受寇、唯信佛語、烏得禦侮、當斯之時、特校茲編、不亦甚迂乎、余曰、古云、黑山已傾、白日斯現、若不摧邪、難以顯正、則禦侮之學、固不可不講焉、夫撥亂反正、未嘗不繇武功矣、雖然將畧寇絕萬世若淮陰者、以識見不醇、終不免鍾室之禍也、今夫不篤信佛祖、則雖有才學、亦是偽假、非真佛弟子、將不免當來拔舌之報矣、苟正見一立、才學以扶植之、則可以糾繩內寇、可以防遏外難、禦侮之策、豈不根據於此乎哉、此余之所以先訂茲編、貽初學也、若曰、老人、唯識是正、才學非其所長、則烏乎然、慶應戊辰閏四月十又五日、不肖弟釋宏遠敬識、

仲信餘筆

目錄

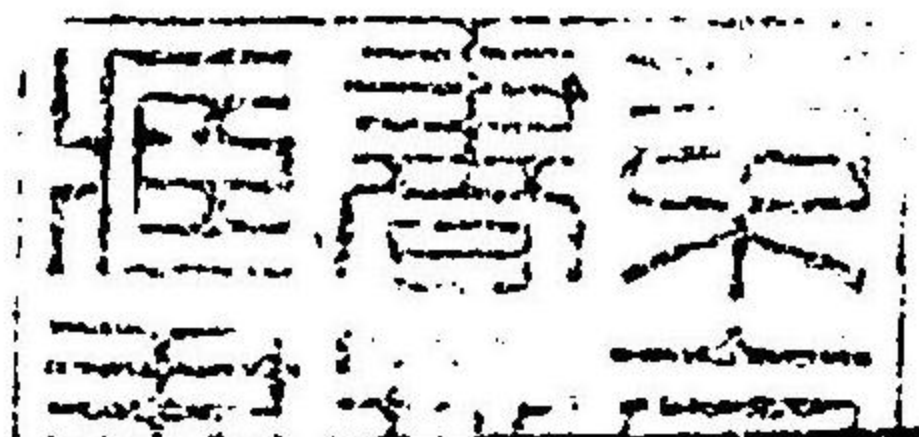
吉水門下三人	選擇司南
九方臯相馬	頂門一針
已證自證	西鎮已證
諸行往生	相對絕對
背師自立	語燈刪修
信心宗要	學徒三類
今時道心寡	信願行說
信願行極畧說	確信祖教
三家之祖一二	

仰信餘筆

真宗門人 釋超然述

吉水門下三人

吉水門下ニ三人アリ、鎮西ハ其皮ヲ得、西山ハ其肉ヲ得、吾
 大谷ハ其骨髓ヲ得タリ、其皮肉ヲ得ルモノ、形似ヨク其真
 形ニ似タレトモ、大師ノ蘊奧ヲ尽サス、其骨髓ヲ得ル
 形似ヲ屑トセス、能其蘊奧ヲ窮ム、猶ヲ九方臯ノ馬ヲ
 相スルカ如シ、所貴神駿ニ在テ、牝牡驪黃ノ間ニ拘々タラ
 ス、而シテ鎮西西山、皆廢立ヲ言フトイヘトモ、鎮西ハ遂ニ
 助正ニ流レ、西山ハ終ニ旁正ヲ極トス、大谷獨廢立ヲ確守
 シテ、永ク助旁ノ痕跡アルコトナシ、元祖以初爲正ノ高判
 ナ以テ、其皮肉ト骨髓トノ昇降ヲ察スヘシ、是真宗古來ノ
 定論、三尺ノ童子モ口ニスルコトナレトモ、八十ノ老翁モ



鏤心銘骨ノ人稀ナルニヤ、動モスレハ西鎮ノ糟粕ニ酔テ、
横超ノ直道ニ俛々タラントス、故ニ殊ニ揭示シテ、三家ノ
殿最ヲ知シム、

選擇司南

吉水ノ選擇集、實ニ淨土真宗ノ基本ナリ、鎮西ニ徹選擇ア
リ、西山ニ密要決アリ、其傳弘ノ左券トス、人或ハ吾高祖別
ニ註釋ナキコトヲ憾ム、六軸ノ教行信證、是其授受ノ劍璽
ニシテ、其忽ニ註疏ト見エサル、是皮毛ノ間ニアラス、能其
骨髓ヲ傳フルモノナリ、何以言之、行卷ニ集中首尾ノ二文
ヲ引ク、是全部ヲ收メテ、眞實行文類トスルモノナリ、而シ
テ化土卷終ニ、眞影圖畫、選擇付属ノ事緣ヲ叙ヘテ、專念正
業之徳也、決定往生之徴也ト結タマフ、其中間鋪叙スルト
コロ、十六章ヨリ承來ルモノ、歴々トシテ徴スヘシ、豈一部

選擇ノ司南ニアラスヤ、

九方臯相馬

吉水大谷、授受加此トイヘトモ、其化儀弘教ニ於ル、異同ナ
キコトアタハス、コレ所謂九方臯ノ馬ヲ相スルタメシナ
リ、其化儀ニ於ル、元祖ハ始終出塵ノ人ニシテ、所謂清僧ナ
リ、高祖三十以後、非僧非俗ノ容ナリ、其弘教ニ於ル、彼ハ念
佛爲本ト談シテ、行ヲ表トシ信ヲ裏ニス、此ハ信樂爲正ト
談シテ、信ヲ表トシ行ヲ裏トス、彼ハ念佛ニ於テ、日課ヲタ
テ、徧數ヲ重ンシ、此ハ報謝ノ稱名ヲ勸メテ、徧數ヲ事ト
セス、彼ハ臨終來迎ヲ期シ、此ハ平生業成ヲ談シテ、不來迎
ヲ義トス、彼ハ旁ヲ圓頓戒ヲ持シ、此ハ固ク无戒名字ヲ甘ン
ス、彼ハ菩提心ノ行ヲ所廢トシ、此ハ二門ヲ判シテ、淨土ノ
菩提心ヲ談ス、彼ハ九品ノ階級ヲ談シ、上品上生ノ説アリ、

此ハ品位階次ヲイハス、凡夫入報ヲ勸ム、コレヲノ差異、各其由アリ、蓋元祖ハ日域淨土開宗ノ祖ニシテ、真門未開ノ運ニ膺ル、高祖承之、更ニ弘願他力ヲ顯開シタマフ、二祖ノ化用、易地而然ノ勢アリ、然ルヲ他家ノ來難ヲ會スルニ當リテ、殆截足適履ノ說ヲナサントス、豈大谷門下ノ民ナラシヤ

頂門一針

凡祖宗ノ化ヲ垂ル、ヤ、各其已證ノ法門アリ、前祖ノ所未言ヲ發揮シテ、能其蘊奧ヲ顯示ス、間離シテ合スル處アリ、又各其所對ノ機類アリ、皮相ヲ以テ妄ニ議スヘカラス、是以遺流ノ人、各其流ヲ奉シテ其源ニ遡ルヘシ、吾真宗ノ如キ、上七祖ニ遡ルヘク、下相承ノ源トナレルモノ、特ニ宗祖ニアリ、仰キテ其垂訓ニ遵ヒテ、凡夫入報ノ要ヲ得ヘシ、淨

土真要鈔六云、ソレ親鸞聖人ハ、深智博覽ニシテ、内典外典ニワタリ、慧解高遠ニシテ、聖道淨土ヲカ子タリ、ユトニ淨土門ニイリタマヒシノチハ、モハラ一宗ノフカキミナモトチキハメ、アクマテ明師ノ子シユロナルチシヘチウケタマヘリ、アルヒハ、ソノユルサレチカウフリテ、製作チアヒツタヘ、アルヒハ、カノアハレミニアツカリテ、真影チウツシダマハラシム、トシチワタリ、日チソタリテ、ソノチシヘチウクルヒト、千萬ナリトイヘトモ、シタシキトイヒ、ウトキトイヒ、製作チタマハリ、真影チウツスヒトハ、ソノカスオホカラス、シダカヒテ、コノ門流ノヒロマレルコト、田舎邊鄙ニチヨヘリ、化導ノ遠クアマチキハ、智慧ノヒロキカイタストコロナリ、シカレハ相承ノ義、サタメテ佛意ニソムクヘカラス、ナカレチクムヤカラ、タムアフキテ信チ

トルヘシ、无智ノ末學、ナマシ非ニ經論ニツイテ義ヲ論セ
ハ、ソノアヤマリノカレカタキ歟、ヨクツムシムヘシ
コレ誠ニ輓近桀鷲ノ宗徒頂門ノ一針ナルヘシ

已證自證

已證、或ハ自證自證字、出於改邪鈔、七十四ト云フ、所謂佻人未談之、吾師

獨存之モノナリ、夫吾高祖聖人、大心海中所現ニシテ、弘通
シタマフトコロ、直是彌陀願王ノ教命ナリ、サレハ三國ノ
祖師、オノクコノ一宗ヲ興行ストイヘトモ、佻力真宗ノ
殿閣ハ、高祖ニ至リテ落成セリ、猶シ台家ニ北齊南岳アリテ、
智者コレヲ大成シ、華嚴ニ杜順至相アリテ、賢首コレヲ大
成セルカ如シ、教行信證大意曰、シカレハ當流聖人ノ一義
ニハ、教行信證トイヘル一段ノ名目ヲタテム、一宗ノ規模
トシテ、コノ宗ヲハヒラカレタルトコロナリ、コノ書ヲツ

子ニマナユニサヘテ、一流ノ大綱ヲ分別セシムヘキモノ
ナリ、一宗ノ規模トハ、所謂已證ノ法門ナリ、其教行證ハ、通
佛法ニ談スルトユロ、開キテ四法トスル、即一段ノ名目ナ
ルモノナリ、而シテ廣書首尾ノ總題、及ヒ畧文類ノ鋪叙、並
ヒニ教行證ノ名目ヲ用ヒ給フ、是以近來ノ稱名家、三法建
立ヲ以テ、吾祖ノ真面目ナルヤウニ筆セリ、諺トイフヘシ、
此餘別依大經、一念業成、稱名報恩、不執來迎、皆是一宗ノ規
模ナルモノナリ、此等ノ法門ハ、門内ノ人、尋常コレヲ耳ニ
シ、コレヲ口ニスル所ナリトイヘトモ、心肝ニイレテコレ
ヲ窺フコトナク、仰キテ信ヲトルコトナクシテ、俄ニ他ノ
來難ニ駭キ匆卒ニコレヲ會釋シ、或ハ吉水大谷ノ間ヲ吻
合セシメントテ、祖意ヲ晦シテソレカ和會ヲナス、ソノ極
吾祖ニ不盡ノ失ヲ負シメントス、皆是仰信ノ醇ナラサル

カイダス所ナリ。

西鎮已證

西山鎮西、皆吉水ヲ承クトイヘトモ、ソノ日課ノ念佛ヲ勸
 ヲ臨終來迎ヲ期スル如キ、皮相ハ相似タレトモ、元祖信爲
 能入ノ高判、弘願獨立ノ念佛ニ於テハ、イマタ他力ノ骨髓
 ナ得エ、是以一ハ助正ニ止マリ、一ハ旁正ヲツノル、廢立ノ
 實義ニ於テハ、吉水ト背馳セリ、且各ソノ家ノ已證アリテ、
 不同ヲ致ス、西山ハ旁正ヲ至極トセリ、故ニ元祖尙未言及
 西山特存之ノ言アリ、故云凡此集中、雖出三重名目、而以廢
 立爲要、所以一向依廢立、未及旁正要門之重也、依此思之、和
 尙在世、一向存廢立、未示要門、吾師之時、人多存旁正、不
 立、若會用之、三重豈乖哉、西谷所述又云、尙能覺知牟尼本旨、無不
 一々所行、皆皈彌陀弘願海門々見佛、得生淨土、是爲傍正要

門之重而已、所以山門僧徒諺云、法然房斷頭、善惠房生捕也、

私記悉スルユト較輯要義三紙二十ノ如シ、西谷ハ猶廢立傍正

和合シテユレナ用ユトイヘリ、鷄木ハ直ニ牟尼ノ本旨ト

ス、何レモ西山ノ已證ヲ以テ標幟トセリ、山徒ノ評セルハ、

師資矛盾ナイフナリ、西山門内、却テユレナ眉目トス、思フ

テ知ルヘシ、鎮西ハサセル自證ナシ、二祖良忠ニ至リテ、ソ

ノ宗義典盛ニシテ、自證ノ處モ顯著ナリ、ソノ因分果分ノ

說、施化利生、發迹入源ノ名目等ノ如キ、良忠ニ至リテ唱フ

ルトヨリ、十八通ニ代々相傳ノ趣奧アリト曰フト雖、選擇

集等ニ面影モナキユトナリ、ソノ十念ニ於テ、口授ノ旨ヲ

イフ如キハ、末師ニ出テ、良忠猶ソノ說アラヌ、論註記ヲ閱

シテ知ルヘシ、且即今華頂ノ法主ハ、仍天台衣ナルニ、僧正

已下ハ禪衣ナリ、ユレ鎮西ニ劔リテ、西山ニ及ヘリ、如此威

儀ニ涉リテ、元祖ニ異ナルヲハ、二家各吉水所未言ヲ談ス、
豈獨吾祖ヲ斥シテ、背師自立トイフヘキヤ、詮スルトコロ、
三家各一家言アリ、ソノ交際ヲヨク、
ニ遊リテ、ソノ親疎ヲ辨スヘシ、
研覈シ、吉水ノ源

諸行往生

鎮西專ラ稱名本願ノ義ヲ立テ、諸行本願ヲ嫌フトイヘト
モ、尙ソノ往生ヲ許ス、故ニ稱シテ二類家トス、ユノ說元祖
ニ於テ的證ナキヲ以テ、决疑鈔二册云、祖師傳云、若人間諸
行皆本願行耶、應答而言、不爾、若人間諸行往生時皆乘本願
乎、應答而言、唯然、故處々釋、述乘願邊、不明行體也、釋鈔二十
云、祖師御言、唯是口傳也、了譽尙駿昧ノ語トス、何ソ佻人ヲ
首肯セシムルニ足シ、故ニ西山家斥之云、彼云諸行佛所選
捨、豈重取己捨行、而爲本願、然諸行往生、此由彌陀攝機願意

周故也、彼以設二類各生義、彼立義一々願言文、亦依毗沙門
堂義解之、不用今師相承義也、今且驗彼義、應難云、諸行果云
各生定應有其本願、若无本願、何得各生、无上功德名號、尚以
本願故得往生、况人天有漏小善等、何由感无漏報土之生、若
言如來願意攝機周故、諸行爲所由來迎果遂、无善凡夫將不
來迎果遂哉、而言无善亦來迎果遂、兩願所由、是其由哉、
義輯要九品寺覺明ハ、諸行本願ノ義ヲ立ルヲ以テ、往生ノ
理、却テ通貫ス、鎮西非本願トシテ、仍往生ヲ許ス、首鼠兩端
ノ義趣ナルヲ以テ、行觀顯意ノ一撥ヲ免レヌ、而シテ昌堂
評シテ云、彼硬執本願念佛偏局口稱、故致二類各生之謬、若
知諸行皈佛、一心願生、願行即具足、何由生此評、彼此只是一
義耳、コレ鎮徒ノ狼狽ヲ睥睨シテ、西山ノ旁正開會、道理極
成セリト誇レルナリ、更ニ吾家ヨリコレヲ觀レハ、假令開

會シテ一念佛トストモ、行相ハ仍會シ得ヘカラス、猶ヲ醫人辰砂ヲ以テ石膏ニ和シテ、コレヲ用ヒンカ如シ、口ニ一類往生ヲ談スト雖、猶二類各生ノ範圍ハ出カタシ、獨吾家ノミ三願ニ真假ヲ分テ、佛土ニ報化ヲ判ス、是以諸行ノ人モ、求願シテ往生スト許スト雖、本願混淆ノ失ナシ、佛土雜居ノ過ナシ、豈純一ノ念佛往生ニ非スマヤ

相對絕對

傳ヘ聞ク西山觀經疏ヲ解スルニ三部アリ、教相鈔ハ初重廢立ノ重、觀門義ハ第二傍正開會門、秘決集ハ第三重絕對門待開會有ナリ、秘決ノ中、又定散念佛來迎ノ三門ヲ立ツ、定散ハ一切衆生ナリ、念佛ハ皈佛ノ行、來迎ハ法界身ノ覺體トシテ、ソノ覺體正ク我往生ノ行ナリ、密要密要決一八云今无衆生行、以佛來迎爲行、淨土宗佗力法門也、又云、成此來

迎益、三業之行也、然衆生无往生行、唯來迎往生行故、發三心、則阿彌陀佛卽是其行、願行具足、以此觀之、西山ノ意、廢立ハ初重ニシテ、一往ノ分別、法華ニ所謂四十余年、未顯真實ノ面影ナリ、ソノ相對究リテ、絕對ニ皈スル處ヲ、第二第三ノ重トス、コレニ至レハ、諸行盡ク、念佛體内ノ功德ニシテ、台家所謂此妙彼妙、妙義无殊ナルモノナリ、吾家亦相對絕對ノ名アリ、廣書二卷鈔ト雖、コレヲ天台ニ倣フニ非ス、只是无敵對ノ謂ナリ、先輩溪柳云、古云、相對絕對、取之天台、今按不然、此依淨土論、云何觀察彼佛國土莊嚴功德、彼佛國土莊嚴功德者、成就不可思議力故、絕對依此如彼摩尼如意寶性、相似相對法故、頂戴更ニ按スルニ、行卷一乘海釋曰、究竟一乘者、卽是无邊不斷、大乘无有二乘三乘、二乘三乘者、入於一乘、一乘者、卽第一義乘、唯是誓願一佛乘也、而シテ下文コレヲ承テ、按本

願一乘海圓融滿足、極速无碍、絶對不二之教也。ト曰ヘリ、ユ
レ諸善万行ハ未ナリ、本願念佛ハ本ナリ、未ハ本ヨリ出テ、
終ニ本ニ皈ス、是以相對極テ絶對ニ皈スレハ、二乘三乘ア
ルコトナク、唯是誓願一佛乘ニシテ、絶テ比校對待スヘキ
モノナシ、而シテソノ絶對中、相對歴然トシテ、本末永ク泯
スヘカラス、サレハ絶對不二ノ機ナレハトテ、一切ノ佛神
ニ對シテ、直ニ本師本佛ノ見ヲナスヘケンヤ、况ヤ大心海
中ノ所現ナレハトテ、其行法ヲ修シ、其利益ヲ憑ムヘキニ
非ス、譬ヘハ公侯伯子男ノ五等ハ、天子所賜ノ爵ニシテ、晋
楚魯衛各ソノ國ヲ建テ、又ソノ大小高下アリト雖、周室ニ
對スレハ、尽ク臣ナリ、ソノ國スヘテ周ノ國ナリ、然レトモ
列國ノ一ニテ指シテ、直ニ周トハスヘカラス、如レ應思之、サ
レハ真宗待絶ノ名目アリト雖、天台ニ同シカラズ、西山ノ

直ニ取テ諸行ヲ開會スルニ較スレハ、殆氷炭ノ異アルノ
ミ、問待絶ハ是台家ノ名目ナリ、西山ノ所用、全ク彼義ニ同
シ、吾家何ソ不同ヲ致スヤ、答、鎮西又言、隨轉理門名目、人師
ノ意樂不同也、十八通夫秘密ノ言ハ一ナリ、天台ハ化儀ノ名
トシ、互不相知、故名秘密、玄妙トイヒ、法相ハ密意不了ト貶ス、
真言ハ秘密一乗ト誇稱シテ、顯教ノ上ニ居ス、別教ノ言ハ
一ナリ、天台ハ通別次第シテ、第二等ニ置キ、圓教ヲ以テ極
トス、華嚴ハ別教一乘、圓滿修多衆ト誇稱セリ、吾祖横豎ノ
判ヲナス、名ハ桐江ニ依ルト雖、ソノ二雙四重ノ排列鹿密
ハ、乃異ナリ、豈柱ニ膠シテソノ不同ヲ怪マンヤ
背師自立
近時鎮徒、吾祖ヲ斥シテ背師自立トシ、且幸西ノ門人ニシ
テ、元祖ノ直弟ニ非ストイフ、彼家ニ於テモ、古ソノ說ナシ、

西譽三國佛祖集卷下云、問曰、善信親鸞ハ、空師瀉瓶ノ御弟子、宗ノ奥義ヲ傳ヘ、智徳天聽ニ聞ユ、上人配流ノ時モ、師弟遠流ナリ、何ソ淨土宗トイハスシテ、一向宗トイフヤ、答、越後國笠嶋配所ノ時、愚禿親鸞ト名ノリテ、有髮ニテ利行同事ス、故ニ一向念佛宗トイフ、上人滅後ノ化儀ヲ助テ、遺弟門葉市ヲナス、ソノ已後歸洛シテ、都鄙ニ一向專修ノ念佛ヲ弘ム、五條西洞院ニ庵室ヲ結ヒ、念佛勤行ス、門徒道場、ソノ數ヲシラス、西山ニハ、三河國法藏寺法然傳卷十云、一向專修ノ聖、綽空親鸞ハ、苗裔ヲタツヌレハ、近衛贈左大臣從一位内麻呂公六代ノ孫、弼宰相五代ノ孫、皇太后宮大進有範ノ子ナリ、至、上人配流ノ時、同ク北國へ遠流セラレ、次ヲ以テ東國ニ下向シ、一向專修ノ念佛ヲ勸メ、遂ニ歸洛シテ、弘長二年仲冬下旬二十八日、行年九十歳ニシテ、種々靈異

ヲアラハシ、往生ヲ遂給ヒキ、今一向專修ト號スルハ、彼綽空親鸞ノ門流也、ユレヲ皆他流ノ相傳ニシテ、明ニ空師瀉瓶ノ弟子トシ、宗ノ奥義ヲ傳フルトハ、選擇付屬ヲサス、且上人滅後ノ化儀ヲ助クトコソイヘ、滅後ノ邪義トハイハス、然ルニ享保十三年丁未、増上寺耆宿、傳燈總系譜ヲ撰シ、背師自立ノ一科ヲ立テ、幸西行空ノ次ニ、愚禿親鸞ト標セル下云、本爲台宗慈鎮之徒、名曰範宴、後飯大師專修淨業、又遊小坂門、諮詢法要、改其名曰善信、房綽空、勸化廣布、四遠道俗如草偃、風、人稱其流、曰一向宗、亦呼謂本願門徒、略云ノ時、尙大師面授ニ非ストハイハス、而シテ遊小坂門トイフ、小坂ハ善惠ヲイフナリ、總系譜上ハ、第二善惠上人一是元據ノ說ナリト雖、幸西ノ門人トイハス、而シテ近年ニ至テ、鎮徒哄然トシテ、吾祖ヲ一念義トシ、幸西ノ門人ナリトイフ、

當知古ソノ説ナシ、漸チ遂フテコノ貶斥ヲナスナリ、而シテソノ説一準ナラス、所_レ皈吾門ノ興盛ヲ妬媚スルニ過キス、漢語燈妄加ノ手段ヲ以テ、鎮徒ノ心術ヲ察スヘシ、

語燈刪修

曾テ先輩ニ聞ク、語燈錄ハ鎮徒刪修ノ手ニ成ルヲ以テ、尺ク信スヘカラス、吾祖宗ノ引用、ソノ痕迹ナシ、故ニ雪山ハ生涯コレヲ依用セス、サレトモ吾宗義ニ符順スル處ハ、傍證ニ備フヘシトイヘリ、ソノ漢語燈、新古二本アリ、文永十一年甲戌十一月、了惠編スルトコロ、古本ノ寫傳、現ニ今京小川西福寺ニアリ、新本ハ寶永二年乙酉三月、知恩院白譽至心、其徒義山ヲシテ、校刻セシム、刪補縱橫、殆舊制ヲ失フ、古本及諸典籍ニ載ルトコロニ對校スレハ、損益スルトコロ頗多シ、其諸消息ヲ載ルニ及ヒテ、尊公閣下、賢旨、愚問、領芳

書、審道情等ノ言アリ、全ク今時尺牘家ノ語ニシテ、吉水ノ真ニアラス、斧鑿ノ痕、コレヲ以テミルヘシ、又至心ノ跋ニ、於_二豆州藥王山寺得_二武州金澤藏本刻之_一トイヘリ、コレヲ以テ、刪修ノ逃ヲ掩ハントス、亦陋シトイフヘシ、右慶証寺玄智ノ考ヲ和述ス、ソノ金澤ノ藏本ト稱スルモノ、金聖歎水滸傳ノ古本、建後、俗舊本伊勢物語ノ類ニテ、實ニ其本アルニ非ス、而シテ鎮徒ノ刪潤、コレノミニアラス、重刊大原問答ノ如キ、妄ニ文句ヲ改竄シ、公然トシテ、叔公人天交接ノ文ヲ引テ、例証トス、其終一念義ノ貶、亦吾宗ヲ譏評セリ、玄智鎮徒刪潤ノ妄ヲ斥シテ云、當知佛教不依底彥多、而依蘇漫多者、意依於義、不依於文也、故言辭文質、素不關干道、何不深思之、惜哉、吉水居多遺文、一經鎮徒之手、空爲鎮西私書了、非復吉水之書也、唯選擇集、以別行已久、而不敢受其瞞欺、親

撰真本、歸然獨存、實遺弟之幸也。教典一今ソノ誣妄ノ一二ニテ
 剝ス、破一念義書ハ、和語燈四出之、又舜昌傳二十九載之、而
 シテ、與由ヲ叙スルニ、於越後國ノ言ヲ加フ、念佛名義集ニ
 ハ、更ニ數言ヲ増シテ、上人配國ノ後、成覺房ノ弟子善心房、
 於越後國、專立一念義等トイヘリ、賈徒ノ妄加、以テ觀ルヘ
 シ、遣北越書ハ、漢語燈十出之、古本ニハ、北國書狀ニ作ル、舜
 昌傳二十九載之、稱シテ一念義停止起請文トス、但於北國
 有一邪人等ノ語ナシ、義山ノ校本、妄ニ加之、又利根之輩、僅
 有五、人得此深法、我即其一人也等トイフ、コレ全ク傳文信
 行兩座ノ段ヲ摹倣シテ、ソノ妄加ノ痕迹、最明白ナルモノ
 ナリ、彼家勅修御傳ト稱シテ、貴重スル舜昌傳ニ、其文アル
 コトナシ、其誣妄ノ手ニ出ルコト、論ヲマダス、又答兵部卿
 基親書、西方指南鈔ニ出ツ、舜昌傳二十九載之、吾先輩ノ中、

取テ稱名報恩ノ例證トス、漢語燈改メテ漢文トシ、更ニ一
 問答ヲ加ヘテ、吾宗稱名報恩ノ說ヲ拒ム、然ルニ古本及舜
 昌傳ニ、其文ナシ、亦是鎮徒ノ妄加ナリ、如此妄加ノ迹ヲ以
 テ思ヘハ、彼亦吾取テ例證トスルニ苦ムナリ、先輩以テ例
 証トス、亦由アリ、

信心宗要

淨土真宗ニハ、信心ヲ宗要トス、然ルニ末徒、口ニ談シテ心
 ニ甘セサル族多シ、欲生正因、稱名正因ナト、ミナ信心正因
 ナ熟得セサルヨリ起レリ、豈家常ノ茶飯トシテ、容易ニコ
 レテ談スヘケンヤ、

學徒三類

ツラ、真宗今時ノ學者ヲ見ルニ、三類アリ、一ニハ師說
 ナ株守シテ、死ニ至ルマテ易ヘス、間諛ヲ覺ルト雖、力メテ

屏障ヲナスコト、宛モ濂洛ノ徒ノ、朱子ヲ崇信シテ、周孔ヲ
 屈シテモ、程朱ヲ伸ヘントスルニ似タリ、二ニハ、桀驚不羈、
 己ニ長タルヲ凌キ、好ミテ先輩ヲ評斥シテ、不足取トス、三
 ニハ、學常ノ師ナシ、朝秦暮楚、彼此ノ社盟ニ濫吹シ、其短ヲ
 攻メ、其隙ヲ覘フノミ、毫モ自己ノ所得ナシ、タ、コレ南郭
 先生ノ分齊ナリ、其餘碌碌ノ徒ハ、舉テ論スルニ足ラス、ユ
 レ余而立ノ比ノ、警言ナリ、而シテ自顧ルニ、懶惰ニシテ歳
 月ヲ虚フシ、齡不惑ニ過キテ、毫モ所得ナシ、コレヲ論スル
 所ニ求ムルニ、碌々ノ徒ノ儔匹ニシテ、議論ヲ勇ニシテ、進
 取ニ怯ナリ、タ、コレ南郭生ナルノミ、慙愧スルニ餘アリ、
 雖然余當局ノ人ニ非サレハ、旁觀シテ其長短ヲ評スルニ、
 方今耆舊漸ハヒテ、株守ノ人ユレ稀ナリ、桀驚ノ人輩出シ
 テ、自讚毀他マス、甚シ、快馬羈絆ヲウケス、其材ヲ展ル

カ故ニ、頗前ニ超タル處アルカ如クナレトモ、競勝ノ習甚
 シクシテ、殆明末士人ノ風習ニ似タリ、株守ノ人ハ、泥滯ニ
 過クト雖、猶敦厚ヲ失ハス、蓋、鶴不成、鷺ニ似タルニ類セリ、
 桀驚ノ人ハ、通融ニ似タリト雖、先輩ヲ毀蔑スルノ極、祖宗
 ナ罵ルニ至ラントス、殆、畫虎不成、狗ニ類スルヨリモ甚シ
 キニ非スヤ、後人請フ醫面ヲ嘲リテ、ソノ藥石ノ言ヲ棄ル
 コトナカレ、此一條故昏堆中ニ披テ此ニ録ス、干支ヲ閱スレ
 ハ、亦三十多年ヲ隔ツ、ツラ、今時ノ學人ヲ見ル、桀捕影
 吠聲ノ態ノミ、ソノ桀驚不羈ノ士、マダ幾何カアル、碌々ノ
 徒、只權門ニ賣緣シテ、一科名ヲ博スルニ過キス、吁、
 今時道心寡

今時ノ學者、桀道心スクナシ、タマ、出要ヲ希ヒ、首ヲ俛
 シテ安心ヲ談スルモノヲ、禿男禿女ノ類ナリト嘲ルニ至

ル、コレ學業ハ出要ヲ曉メン爲ナルコトヲ知ラス、黄卷赤軸ヲ以テ、豪具トスルノ見ナルニヤ、往昔傳灯ノ大士ハ論ナシ宗門中古ノ先輩、各道心ヲキハナシ、ソノ著述遺聞ヲ以テ知ルヘシ、然ルニ入道法門ノ中、道心ヲ希フモノ、或ハ學問无用ノ説ヲナシ、又ハ本宗ノ先哲ヲ眇視シ、明惠傳、沙石集等ヲ翫ヒ、漫ニ猛利ノ心ヲ勵マントス、噫、過タルハ猶不及カコトシ、執中ノ難キ、古今一揆ナリ

信願行說

信願行ノ三ハ、往因ニ就テ无ンハアルヘカラサルモノナリ、故ニ聖教ノ中、欲生正因ニ似タル文アリ、稱名正因ニ似タル文アリ、偏見ノ徒、或ハコレヲ誤リ認メテ、信心正因ニ混セントス、中興師曰、口ニタ、稱名ハカリヲトナヘタラハ、極樂ニ往生スヘキヤウニオモヘリ、ソレハオホキニ、オ

ホツカナキ次第ナリ、豈稱名正因ナラシヤ、又曰、極樂ハダノシムト聞テ、參ラシト願ヒノジム人ハ佛ニナラス、彌陀ヲダノム人ハ佛ニナル、豈欲願正因ナラシヤ、高祖師曰、涅槃真因、唯以信心、唯但ノ二字ハ、餘縁ヲカラズ、豈或ハ欲願、或ハ能稱、餘縁ヲ假テ正因ヲ成センヤ、故ニ中興師曰、祖師聖人御相傳一流ノ肝要ハ、タ、ユ、コノ信心ヒトツニガキレリ、云云、然ルニ指方立相ノ教義、因果相望ニ約スレバ、願トイヒ行トイフ、皆因ニ屬スヘシ、故ニ欲往生ノ人トイヒ、或ハ念佛往生ノ人トイフ、故ニ往因ニ就テ无ンハアルヘカラストイフナリ、

信願行極畧說

吾家ノ教示ニ於テ、不願而願トイフヘシ、謂願成就ノ一念、即是願作佛心ノ故ニ、不行而行トイフヘシ、謂如實修行相

應ハ、信心ヒトツニサダメタリト曰ヘルカ故ニ、不信而信
トハイブヘカラス、コノ信心ヲ獲得セスハ、往生カナフヘ
カラサルカ故ナリ、應知信心正因ニシテ、欲願正因、稱名正
因ニ非ルコト、焰トシテ明カナリ、余曾テ京寓ニシテ此
説ヲナス、僚友某甲、節ヲ擧テテ獎許セリ

確信祖教

宗乘ニ異解ノ起ルハ、ミナ吾祖ヲ確信セサルヨリ、七祖ヲ
以テ高祖ヲ匡シ、佗師ヲ以テ自宗ヲ糾サントスルニ至ル、
故ニ至心回向ノ交點、即便ニ往生等、ソノ餘彼々ノ義、口ニ
談シテ意ニ甘ンセス、コレ祖判ヲモテ、鷄肋トスルモノ歟、
天台十如是ヲ談スル如キ、三轉ノ讀法、何ノ誠證カアル、シ
カルヲ彼ハ法華三昧發得ノ人ナレハ、左モアルヘシト謂
ヒテ、コレヲ議セス、而シテ妙教流通ノ大士ニ於テ、賺スル

ハイカニソヤ、又眞言ノ依據トスル釋摩訶衍論ハ、他家以
テ偽論トスト雖、大師コレニ依テ十住心ヲ建立ス、故ニ密
徒力メテコレカ會釋ヲナシ、佗人ト雖ソノ一家言トシテ
口ヲ籍ム、然ルチ眞宗ノ徒トシテ、高祖ニ於テ、他宗ノ祖師
ニ及ハストスルヤ、亦甚悲シカラスヤ、而シテ公然トシテ、
祖門ニ衣食シ、自ラ方袍ヲ以テ稱ス、何ソ無慙愧ノ甚シキ
ヤ、殆東家ニ食シ西家ニ寐ントイフニ類セリ、夫大要鈔主
ハ、吾宗ノ碩德、而モ祖師ヲ去ルコト遠カラス、而シテ字訓
未悉勘得、本文博覽宏才、可仰可信トイヒ、高田ノ顯智房ハ、
聖人ノ訓ヲ守リ、生涯舟ニノラス、耳ヲ食セストナン、一時
ノ誠語ト雖、終身ニ及ホス、ソノ敦信スルコトヤ至レリ、如
此崇敬シテ、コソ、其流ヲ汲ミ、其教ヲ傳フル甲斐モアラズ、
自見ノ覺悟ニ任セテ、相承ノ實語ニ悖フハ何ソヤ、繼令廣

ク大小ノ經論ニ涉リ、博聞洽識トイハル、トモ、タ、解門ニシテ、行門ニイタラス、サヲハ其觀門ニ於ル、企テ及フヘカラス、吾家ノ安心ハ、佻家ノ所謂觀門ナリ、サレハ出離如何ト思惟セハ、タトヒ博洽ノ士ト雖、謙シテ祖訓ニ服スルニ如カス、カヘス、モ祖教ヲ確信シテ、マメヤカニ宗義ヲ窺フハシ、

三家之祖一

三家ノ祖、年齢ハ、鎮西吾祖西山ト次第ス、入室ハ、西山鎮西吾祖ト次第シ、入滅ハ、鎮西西山吾祖ト次第セリ、聖光ノ俗年、吉水ヨリ少キコト二十九、吾祖吉水ヨリ少キコト四十年、證空吉水ヨリ少キコト四十四年ナリ、入室ハ、證空十四歲、建久元年庚戌ナリ、聖光三十六歲、建久八年丁巳ナリ、高祖二十九歲、建仁元年辛酉ナリ、入滅ハ、嘉禎四年、曆仁閏

二月二十九日、聖光七十七歲、此時高祖六十五歲、證空六十一歲ナリ、寶治元年十月二十六日、證空七十一歲、此時高祖七十五歲ナリ、問、聖光入室、高祖ニ先ツコト五年ナリ、然ルニ口傳鈔ニ、聖光ノ入門ヲ以テ、高祖ノ紹介トセラル、相違如何、答、此義タ、門外ノ人ノ不許ノミニ非ス、高田正統傳ニ、擧テ疑難セリ、非正統傳ニ辨シテ云、有説曰、慈鎮モト吉水ニ皈シ給フ故、吾祖モ慈鎮ノ命ヲ奉シテ、入室以前ニモ、吉水ニ至リ給フコトアリ、其時ニ誘引シ給フナルヘシ、聖光ヲハ同車アリシニテ知ヘシ、隱遯入室ノ後、何ソ乗車シ給ハシヤ、入室ノ日、盛服乗車シテ、吉水ニ至リ給ヒ、從者ハ空車ヲ引テ門外ニ候スルコト、傳繪ニミユ、然レハ初ハ乗車ナルコト知ルヘシ、玄智此辨痛快トイフヘシ、吉水ノ垂示、鎮西ノ慢幢ヲ摧クコトハ、舜昌傳四十六ニモミユ、曰建

久八年、吉水ノ禪室ニ參ス、時ニ上人六十五、辨阿三十六ナ
リ、ヒソカニオモハク上人ノ智辨フカシトイフトモ、ナン
ソワカ智解ニスキシヤト、ユ、ロミニ淨土ノ樞鍵ヲダ、
ク、上人ユタヘテノタマハク、汝ハ天台ノ學者チレハ、スヘ
カラク三重ノ念佛ヲ分別シテ、キカシメム、一ニハ、摩訶止
觀ニアカス念佛、二ニハ、往生要集ニス、ムル念佛、三ニハ、
善導ノ立給ル念佛ナリトテ、クハシクコレヲノヘ給フ、至
コレヲキクニ高峰ノユ、ロヤミ、渴仰ノ思フガシ、

三家之祖ニ

吉水ノ本宗天台ナリ、其瀉瓶ノ上足、多ク台宗ヨリ皈嚮セ
リ、聖覺ハ澄憲ノ息ニシテ、素ヨリ天台ナリ、信空ハ叡空剃
度ノ弟子、其滅後吉水ニ從フ、隆寛ハ範源ニ從フテ落髮シ、
慈圓座主ニ就テ學ヒ、後吉水ノ室ニ入ル、鎮西ハ筑前ノ人、

幼クシテ菩提寺ノ妙法ヲ師トス、十四歳ニシテ、明星寺唯
心ニ就テ剃度シ、後叡山ニ登リテ觀叡ニ從ヒ、又賢池房託
眞ニ就テ、八教ノ幽致ヲ極ム、本國ニ還テ、油山寺ノ學頭ト
ナリ、且淨業ヲ修ス、建久八年西上シテ吉水ノ室ニ入ル、口
傳鈔ニハ、兩三年隨侍セルムヲ載ス、本傳ニハ、三月ノ後
西皈トイヘリ、三年三月、傳聞ノ異ノミ、獨西山ハ、吉水剃度
ノ門人ニテ、隨侍二十年ニ及ヘリ、且選擇集筆授ノ故ヲ以
テ、彼家特ニ正統ト誇稱ス、然レトモ三家ノ優降ヲ論スル
ニ、弘願他力ノ念佛ヲ以テ定量トス、聖光嘗謂徒曰、在昔在
叡山、得諸法實相之說、後來吉水、傳念佛往生之義、料簡二教、
理義融焉、單聖道人、不知佛意、唯念佛者、難契教旨、夫欲開大
聖之秘藏、須用三學之管鑰、我斯言龜鏡、學者宜厝心、若關一
法、恐墮偏局矣、本朝高僧傳十三卷後學須ク目ヲ刮テ觀ルヘシ、料簡

二教、理義融焉トイフ、西山開會ノ面影アリ、若闕一法、恐墮偏局トイフ、永ク自力諸行ヲ廢スルニ非ス、サキニ鎮西ノ祖、サセル自證ナシトイヒシハ、顯著ノ名目ナキチイフノミ、助正兼修、二類各生、豈聖光ノ自證ニ非スヤ、西山吉水ノ函丈ニ侍シテ、廣ク義學ニ涉ル、元祖滅後、更ニ顯密二教ヲ一時ノ名匠ニ稟聽シ、特ニ慈圓座主ニ從フテ、台教ヲ琢磨ス、ソノ傍正開會ハ、是智者爾前ヲ權トシ、法華ヲ實トシテ、施開廢ノ三譬ヲ立ルヲ源トスルナリ、初小坂ニ住シテ、都人ヲ勸授ス、建保ノ季年、慈圓ノ囑ヲ受テ、西山三鈔寺ニ遷テ、盛ニ淨教ヲ説ク、所謂顯密要義、圓頓戒法、隨機説授、遠近靡、風トハ、其自證ノ處ヲ叙ルナリ、寛喜二年、寶塔落成ス、中央ニ佛眼ノ曼陀羅ヲ掛ケ、前ニ天台善導ノ兩像ヲ安シ、千僧ヲ供養シテ、慈鎮和尚千日ノ忌辰ヲ薦ス、晚年相國藤公

家、法性寺ノ内ニ、遣迎院ヲ構ヘ、空ノ化導ニ便リス、境近キヲ以テ、泉涌寺明觀ト來往シ、毗尼ヲ討論ス、終焉ノ前日、門人ニイヘヲク、吾尋常化佗門ヲナス、今日直ニ自利ノ相ヲ示サントテ、威儀ヲ具シ、定印ヲ結テ坐ス、其日、觀來テ疾ヲ問フニ、追テ、尙天台菩薩戒義疏所明ノ、四教ノ階位ヲ問フ、往復時ヲ移シテ、觀永訣シテ去ル、本傳元祖素ヨリ圓頓戒ヲ以テ、自利トシタマハス、常ニ十惡ノ法然房、愚痴ノ法然房ト曰フ、西鎮二師ハ、コレニ異ナリ、鎮ハ三學ノ管鑰ヲ用ヒヨトイヒ、西ハ直ニ自利ノ相ヲ示ストイフ、ソノ念佛ニ於ル助正旁正ノ域ヲ甘ンス、獨我祖、闍聖入淨ノ純粹タル、一心專念ノムチ班然タリ、故ニ嘆シテ自行化佗、守道綽之遺誠、專修專念、任善導之古風ト曰ヘリ、三家ノ優降、弘願他力ノ念佛ヲ以テ、定量トスルコト、豈不爾乎哉、

明治十年六月十八日
同年七月一日

御届
刻成

定價金十二錢五厘

京都府平民

著者相續人

河原達性

下京第八區三條通大橋東入五町目
西海子町三十五番地眞覺寺住職

京都府平民

出版人

永田調兵衛

下京第廿三區花屋町油小路東入
山川町貳百七十二番地

